草笛学園　2023年 8月号

８月に入りました！外からはセミの鳴き声が聞こえるようになり、いよいよ夏本番といった季節になりました。日差しを浴びただけでも汗がしたたりますね。子どもたちはなおさら、身体に熱がこもりやすいです。なので、おうちでは水遊びをしてクールダウンしたり、海や川に行って水の冷たさを感じたりするのも良いかもしれませんね。温暖化のせいでしょうか、年々気温が高くなってきています。水分補給をこまめに行い、熱中症には十分お気を付けください。

◆子どもの「イヤダ！」に、どうつきあう？

子どもの「イヤダ！」に手こずったことは、子育てや保育にかかわった方ならほとんどが経験済みだと思います。なぜ、おとなの言うことを聞かずに「イヤダ」と拒否の意思表示をするのか。これについては、多くの発達心理学者が研究してきました。自我の発達として、一歳過ぎから二歳ごろにかけての発達過程でみられる事象だといわれています。

私が気になっていること。それは、一歳や二歳の時期だけではなく、幼児期や学齢期になっても、あるいは中学生になってからの「イヤダ」に手こずっている相談もよくある、ということです。「イヤダ」は、子どもが小さいときだけではなくて、大きくなってもまだまだ親や先生を困らせることがある、ということを、広く知ってもらいたいと思います。

どんなことであれ、「イヤダ」は子どもの大切な意思表示です。頭ごなしに否定したり、拒否したりするような性格のものではありません。それは何歳になっても同じです。

「お風呂に入ろう」と誘っても、子どもからは「イヤダ」の返事しか返ってこないときには、あわてず、叱らず、イライラせず。「そうだね、お風呂に入るのがイヤなんだね」と、子どものイヤな気持に共感するお返事を。どんなイヤダにも、「イヤなんだね」と受け止めて返すのがベストです。まず自分の気持ちをわかってもらうという経験が、子どもにとってコミュニケーションを体感するスタートラインだからです。

～中略～

小さいときに子どもが発してくれる「イヤダ」は、親としてこれから直面するかもしれないもっとドキッとするような「イヤダ」に出会ったときに、あわてず迷いなく「イヤなんだね」と共感できるための練習をさせてくれているんだと思います。

「そうだね」と子どもにかける言葉は、甘やかしとも、言いなりとも違います。むしろ、それは、子どもががんばることができる、子どもの気持ちを強くする言葉です。なぜなら、子どもがいちばん求めている共感の言葉だから。おとなにわかってもらえたら、苦手なことでも、イヤなことでも、子どもは乗り越えていくパワーを身につけます。

参考文献『いつからでもやりなおせる子育て　第２章』池添　素　著

次回のめだか教室は…『さんぽ』をします！

めだか①　９月１２日（火）９：20～11：15
めだか②　９月２６日（火）９：20～11：15
〈持ってくるもの〉
帽子・水筒・動きやすい靴と服装
※保護者の方も動きやすい服装でお願いします

『参加される皆様へ』　～ご協力をお願いします～

・お休みされる場合は、学園までご連絡下さい
・参加費は無料です。（おたよりはホームページに記載され、通信費が必要ないため）製作やクッキングの活動の時には、材料費として 100 円いただきます。その都度連絡します
・草笛学園遊戯室での活動となります　　・靴は下駄箱に入れて下さい
・水分補給のため、お茶を用意して下さい（ジュース類は控えて下さい）
・きょうだい児の参加はご遠慮下さい。預け先がない場合は事前に職員までご相談下さい
・トラブルによるケガ防止のため、参加前に爪を必ず切ってきて下さい

【感染症対策について】（※国の方針に準じて対策を見直しています）

・参加者や職員共にマスクの着用は自由とします。但し、クッキングの際やその時々の感染状況をみて着用をお願いする場合があります
・原則大人１名・子ども１名の参加をお願いしてきましたが、今後はその限りとはしません。但し、グループによっては参加者が多い場合がありますので、担当職員にご相談下さい
・入室前の検温・申告は不要ですが、朝の検温等、引き続き体調管理をお願いします。37.5 度以上の発熱がある場合は参加をお控え下さい
・園内の換気や消毒は引き続き継続します